

新・国民民主党（仮称）入党のご報告

謹啓

日頃より、皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症対策や災害対応等に関わっていただいている皆様に心より敬意と感謝を申し上げます。

所属政党の解散方針が決定されて以降、地域の皆様をはじめ後援組織、同僚議員、企業、諸団体など多くの皆様から真摯なご意見を賜りつつ、今後の所属について検討を重ねてまいりました。そして、熟慮の結果、私は立憲民主党とつくる予定の合流新党への参加を見送り、同じ立場の同僚議員とともに現在の国民民主党の理念・政策・政治姿勢を継承する新・国民民主党（仮称）を立上げ、そこに所属して活動することを決断いたしました。以下、その決断に至る私の想いを申し述べさせていただきます。

1. 私がめざす政治の在り方について

私は、国内の製造現場から国政に飛び出した立場として、当初より「現場主義」の基本理念に従って議員活動を続けてまいりました。多くの場所に足を運び、働く仲間が汗を流す現場に寄り添い、地域に住む方々のくらしの声に耳を傾け、こうした現場の声を国政に届けていくことにこだわりをもって活動をしてまいりました。同時に、私はこれまで多くの皆様から、これからの野党が国民の皆様の期待に応えうる政治集団となっていくためには、これまで以上に実現性や実効性を重視した「現場・地域に寄り添う姿勢」、「現実的な政策を提案する姿勢」、「建設的に論議する姿勢」を磨かなければならないというご指摘を絶えずいただき続けてまいりました。私は将来の日本をつくるために、上記のご指摘を実践することのできる改革中道政党が必要不可欠であると確信しています。

2. 合流新党への入党見送りについて

現在、合流新党には149名が結集することとなっており、この政党に参加しないとする決断について、多くの皆様からのご意見やお叱りがあることは重々承知しております。しかし、合流新党の綱領案が提示された際、いくつかの点について私の政治信条と相違する記載があり、党執行部に対して修正を求めてまいりました。執行部の方々には並々ならぬご尽力をいただいたものの修正は実現されず、期限までに合意点を見出すことができませんでした。そのため、残念ながら合流新党に参画できる環境が現時点では整っていないと判断し入党を断念いたしました。

3. 新・国民民主党の立上げについて

しかし、現在は新型コロナ対策をはじめ、地方経済・国内産業をとりまく環境の変化や自然災害の多発など国政における政策対応の必要性が高まっている状況であり、自民党に対峙し、緊張感のある議会をつくる必要性はいささかも変わっておりません。そのため、当面の間、野党が「総体」として皆様のご期待に応えられる政治集団となれるよう、私は、国民民主党の理念・政策・政治姿勢を継承する新・国民民主党（仮称）を同僚議員と立上げ、次の一步を踏み出す覚悟を固めた次第です。加えて、私自身の想いとして新・国民民主党（仮称）では、これまで以上に①地方分散型経済の構築、②教育・医療の重点化、③新産業への投資、④災害等への備えなど、これまで地域の皆様からいただいた声を具体的政策として取り込んでまいります。皆様にも是非、私とともにこの後継政党をお育てくださいますようお願い申し上げます。無論、合流新党に参加した同志との連携も引き続き図りながら、政権を担い得る政治集団をめざしてまいります。

4. 民主党の心を引き継ぐ決意

なお国民民主党は、平成8年9月に当時の社会民主党、新党さきがけ等によって結党された民主党に源流をもち、当時、茨城5区において国政を担っていた大畠章宏元代議士も民主党結党に参画されました。多くの諸先輩方とともに幾多の選挙を乗り越え、地域主権改革や共生社会の実現といった理想を当時から今に至るまで育て続けてまいりました。諸先輩方の歴史と想いの重なり合った国民民主党は、私にとっても大切な政党でした。今回この党が解散すること自体は決して両手を上げて喜べるものではありませんが、これまでの活動を通じて、諸先輩方をはじめ多くの皆様から学んだ事をしっかりと次の一步に活かしていくことをお約束申し上げます。

何卒、皆様の寛大なるご理解と、これまでと変わらぬご指導・ご鞭撻の程、お願い申し上げます。時節柄、どうぞご自愛ください。

謹白

令和2年 9月10日

衆議院議員 浅野 哲

浅野 哲